

須坂市教育委員会 5月定例会 会議録

1 日 時 2024年5月24日（金）午後2時00分～午後4時30分

2 場 所 須坂市役所 305会議室

3 出席した委員

教育長	勝山 幸則
教育長職務代理者	二ノ宮邦彦
教育委員	土屋 保男
教育委員	山下美知子
教育委員	村石 忍

4 説明のため出席した職員

教育次長	山岸 和美
学校教育課長	中村 健司
子ども課長	永井 隆広
人権同和教育課長	高橋 克彦
文化スポーツ課長	寺沢 隆宏
生涯学習推進課長	寺澤 勝志
主任指導主事	後藤 昭彦
指導主事	宮崎 健
指導主事	北村 雅
指導主事	松木 智子
指導主事	西原 秀明

5 事務局出席職員

庶務係長	山本 雅代
庶務係	返町 美里

6 本日の会議に付した事項

1 学校等の状況報告について

2 議題

- 議案第29号 須坂市家庭的保育事業等の設備運営に関する基準を定める
条例の一部を改正する条例について
- 議案第30号 須坂市教育委員会組織規則の一部を改正する規則について
- 議案第31号 須坂市社会教育委員の委嘱について
- 議案第32号 市立須坂図書館協議会委員の委嘱について
- 議案第33号 県教育委員会及び市町村教育委員会相互の任免及び人事等
に関する了解事項の取り交わしについて
- 議案第34号 須坂市学校問題解決支援チーム委員の委嘱について
- 議案第35号 須坂市医療的ケア運営協議会委員の委嘱について

3 協議

- (1) 「教育の窓」
- (2) 校長会との懇談テーマについて

4 一般行政報告

- (1) 教育長出席行事の報告について
- (2) 行事共催等承認の報告について
- (3) 6月補正予算（案）について
- (4) その他

5 その他

- (1) 教育委員会行事予定について
- (2) 須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について
- (3) 須坂市蔵の町並み「重要伝統的建造物群保存地区」選定にかかる答
申について
- (4) その他

教育長が開会を宣した。

1 学校等の状況報告について

教育長が説明を求め、主任指導主事が説明した。

- ・学校外での骨折を伴う事故の報告があった。
- ・不登校、不適応への取組みについて、令和5年度の結果を出した。全国的な結果について11月に公表がある。
- ・低学年より不登校となる児童が増加している。これが最近の特徴であり、この人数が持ち上がって高学年へ響いていく。
- ・小学校5年生、6年生、中学校2年生の人数が多いため引き続き注視していく。
- ・年間を通してスクリーニング会議、支援会議の見直しを行う。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用、校内教育支援センターの設置促進などで不登校への対応を行っていく。
- ・学校経営概要について、授業日数については204日、205日がピーク。昨年度に比べて増えてきている。5時間授業を増やし、先生のゆとりを持つ狙い。
- ・夏休みの日数は約1か月間を確保している。
- ・学校行事については、コロナ禍を超えて増えてきている。時数にして80～90時間を超える学校については授業に回しゆとりのある学習をしてほしい。
- ・小学生で学習塾に行っている児童生徒について、全体の約5分の1が通っている。文化系の稽古については約5分の1の児童が通っている。運動系の稽古については4割程度。
- ・留守家庭が26.8%となっている。
- ・児童、保護者の学校生活アンケートでは肯定的な意見がおおむね90%を超えている。
- ・小学校での希望者への補充授業について、長期休みをもっと有効活用したい。
- ・不登校支援児童に対応する部屋について、教室が足りず用意できない学校があるが、必要に応じて保健室などを利用している。
- ・中学校の家庭訪問は市内4校すべてなし。
- ・留守家庭については小学校と同程度の数値。
- ・学校生活アンケートについて、小学校より10%～15%低下している。

- ・中学校での希望者への補充授業はどの学校も長期休みを有効に利用している。

委員：

- ・中学校での家庭訪問がゼロであることに対し、生徒の学校や家庭での状況について伝えるための個別面談はあるか？

指導主事：

- ・ない。必要に応じて家庭・学校から電話で連絡をしている。

委員：

- ・本音を聞き出すチャンスがないのではないか。

指導主事：

- ・難しいかもしれない。

教育長

- ・家庭訪問となると親の仕事で対応が難しいこともある。長期休みで個々の面接を入れるなどの工夫を進めている場合もあるので確認が必要。

指導主事：

- ・まず入学のあと緊急の場合のため家の場所の確認をする。夏休みに全員三者懇談を行う学校もある。

教育長

- ・学校によってさまざまな工夫をしている。今一度取組みについて再度確認する。

委員：

- ・ドリル学習や希望者への補充授業について、外部の支援サポーターが入ることはあるのか。

指導主事：

- ・学校によっては外部のサポーターが入る。

委員：

- ・学習塾について、須坂市の児童生徒が通う割合は、他市に比べてどうなのか。

指導主事：

- ・県全体の集計の公表が6～7月にあるので比較する。

委員：

- ・骨折を伴う事故について件数が多いが、学校や児童生徒へ注意喚起を促したほうがいいのではないか。また、登下校以外で自転車に乗る際ヘルメットはするののか。

主任指導主事：

- ・ヘルメットについては着用している。事故が多いことについては教育委員会から各学校へ、学校から保護者へ注意喚起を行った。

2 議題

議案第29号 須坂市家庭的保育事業等の設備運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議案第30号 須坂市教育委員会組織規則の一部を改正する規則について

議案第31号 須坂市社会教育委員の委嘱について

議案第32号 市立須坂図書館協議会委員の委嘱について

議案第33号 県教育委員会及び市町村教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の取り交わしについて

議案第34号 須坂市学校問題解決支援チーム委員の委嘱について

議案第35号 須坂市医療的ケア運営協議会委員の委嘱について

教育長が説明を求め、各課長が説明した。特に意見・質問無く、承認された。

3 協議

(1) 教育の窓

北村指導主事が発表した。

(2) 校長会との懇談テーマについて

委員：

- ・学力について、学習面を見てくれる外部の人がいるといい。長野市では塾や習い事について体験の補助金が出る制度があった。学力も含めて自分の興味関心を伸ばすチャンスを提供できる仕組みがあるといいが。

教育長：

- ・家庭学習の効果について、子どもたち自身の気持ちや取り組み方もあるが、外部からの力を気軽に取り入れるといいということか。

委員：

- ・学習について、学校でやるのが楽しくて学校で取り組めるというのが公立学校としてあるべき姿だと思う。アンケート結果では学校が楽しい、授業の理解ができるという回答が高かったが、それが学力テストに反映されていない気がする。校長先生方が塾についてどう思っているかを聞きたい。

教育長：

- ・学校としてやることもあるが、学校外の学びの場について校長先生方はどう思っているのかということを知りたい。

指導主事：

- ・長野市の取組としては、塾というより地域の人と一緒にあってさまざまな体験をするという方向だと認識している。

教育長：

- ・いずれにせよ放課後の学校外の学びの場、自分のやりたいことを体験するきっかけが作ればいい。

委員：

- ・一番は基本的な学びなのではないか。不登校の原因の一つに授業の内容についていけないというものもある。コミュニティスクールなど地域の人が学校にきて学習ボランティアをしたりするのか。現在のコミュニティスクールの状況と学校と地域の関わりがどのようになっているのか知りたい。

教育長：

- ・学習面も含めて地域がどのように学校に関わっているのかということ、地域も含めてどのように学校に関わっているかを知るということは一つ共通のテーマとしてある。他にはどうか。

委員：

- ・自分の身近な話として、ずっと学校に来られなかった子どもがいたが、毎日子どもたちが朝呼びにいくと徐々に不登校が解消され、教室で一緒に授業を受けられるようになった。彼が不登校になってしまった原因として、深夜にゲームをしていることがあった。友達同士で話し合いをし、朝起きられるようにゲームの時間を決めることもできた。メディアとの付き合い方について、親や本人の意識がないと難しいが、不登校解消についてそのような事例があったということを経験先生方に知っていただきたい。

教育長：

- ・不登校の子どもをどう支援していくかの一つの事例としてある。

学校教育課長：

- ・声かけは親からの働きかけなのか、子どもたちの自発行動なのか。

委員：

- ・子どもたちの自発的な行動だった。ゲームが共通の話題になることは今の時代として仕方のないことかもしれないが、それが生活に影響してし

まうということについて考えていきたい。一方的にダメというよりも、共通の話題を良い方向にもっていければと思う。

教育長：

- ・不登校と家庭の環境について、懇談会で話題にできることはあるか。

主任指導主事：

- ・睡眠時間の確保と不登校はかなり関連している。生活リズムの乱れが学校生活には直接的な関連がある。生活リズムの改善が不登校の改善につながったということはもっと様々な人に知ってもらうべき。

教育長：

- ・現在は学校が家庭に入りづらくなっている現状があるが、もっと関わっていける部分があると思う。須坂市で取り組んでいる早寝早起き朝ごはん運動なども良い。

委員：

- ・その活動について、全小学校3年生を対象にしている。子どもだけで簡単に作れる朝ごはんなどを実際に栄養教諭と一緒に考え、親子で作るなどもしていた。とてもいい取組みなので続けてほしいし、生活リズムの改善への働きかけにもなると思う。子どもの自立の力にもなる。

学校給食センター所長：

- ・給食センターでは親子給食なども行っている。

教育長：

- ・学校のみでは進められないことも多くある。そこに行政がどう入っていくかという面でもいい話が聞くと思う。

指導主事：

- ・学校現場はどうしても学校だけで解決しなければいけないという意識がある。現場の悩みを、行政を含めた外部にどうつなげて解決していくかは、子ども自身にとっても良い。外部との連携の必要性は高い。

教育長：

- ・保育園など子ども課としてはどうか。

子ども課長：

- ・須坂市の中で園小連携が大きな柱としてある。園長それぞれ考えていることはあるが、先ほどの体験学習の話も含め、外部との連携をどのようにしていくかは保育園にも重要なこと。

教育長：

- ・まとめると、学校の授業をよくすることはもちろんだが、学習を支援する外部の存在について学校がどう思っているのか。また、不登校について家庭生活の重要さをどのように発信していくのか。保育園の段階でしていかなければいけない。今回の話は結論が出ないかもしれないが、テーマとしては重要。この方向でまとめさせていただく。

4 一般行政報告

(1) 教育長出席行事の報告について

教育長が報告した。

(2) 行事共催等承認の報告について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

- ・共催が3件、後援が10件。不承認が3件。新規案件は1件。

(3) その他

なし。

5 その他

(1) 教育委員会行事予定について

教育長が説明を求め、各課長が説明した。

(2) 須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について
教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

(3) 須坂市蔵の町並み「重要伝統的建造物保存地区」選定にかかる答申につ
いて
教育長が説明を求め、文化スポーツ課長が説明した。

(4) その他
なし。

教育長が閉会を宣した。